



秋本番。昼間こそ暖かいものの、夜は薄手の布団では寒いくらい。
夜もどんどん長くなってきました。
気候が安定し澄んだ空気が肌寒くも心地よい、そんな季節になりました。

先日は中秋の名月。信濃川にかかる大手大橋を車で走行中、視界の隅に何やら異形のものが。
月光に照らされた中越の山々を背景に、長岡の街並みの中に”ラプンツェルの塔”よろしく、
ひと際目立つ巨大なシルエット、
その正体は、長岡のシンボル「水道タンク」。
久しぶりに立ち寄ってみました。

高さ 41.4 メートル、鉄筋コンクリート造 6 階建て。
長岡市の上下水道敷設（ふせつ）に伴い、大正 15 年（1926）に造られた「配水塔」。
真下から見上げるとその大きさに改めて驚かされます。

昭和 2 年（1927）に旧中島浄水場が操業を開始してから平成 5 年（1993）まで 66 年に渡り
長岡市民に飲料水を届けていました。
役割を終えた今でも、往時の長岡を伝える貴重な施設として地域に愛されています。
新潟県で 2 番目に国の登録有形文化財に指定されたことも有名ですね。

タンクの足元に広がる「水道公園」には、タンクに水をくみ上げていたポンプ棟など関連施設も同じく敷地内に保存され、近代水道の歴史を感じることができます。

大正～昭和初期のモダニズム建築、重厚な鉄筋コンクリート造りの施設群、公園を歩くだけで博物館を訪れたような気に（※個人差あり）。

2階建てのポンプ棟、1階部分の窓枠は長岡市街を焼き払ったあの空襲で破壊され、現在は新しい金属サッシが付いています。

電気室棟の屋根には焼夷弾が突き抜けた穴を修繕した痕跡も残ります。

こんな歌を詠んでいる方がおられました。

『空襲の閃光絶え間なき夜を水道タンクはすつくと立ちみき』

（越後長岡百歌より）

楽しい時も辛い時も、戦禍に耐え忍んだあの日々も、市井の営みを今も見守ってくれているんだ。

と、水道タンク越しに見上げる夜空がにじんで見える。

水の流れは変わったけれど、今も変わらずに、大切なものを運んでくれている。

そんな気がしました。

長岡市では平成8年に水道タンクを現在の姿に全面改装し、長岡のシンボルとして、水道タンクのライトアップを実施中。

晴れた日の日没から午後9時まで（要確認）、夜空を背景にその姿を楽しむことができます。

▽アクセス

- ・長岡駅から徒歩で約15分
- ・長岡駅から車で約5分
- ・関越・北陸自動車道長岡インターより車で約15分、中之島見附インターより車で約15分
